

都市再生整備計画 事後評価シート  
多治見駅周辺地区

平成23年3月

岐阜県多治見市

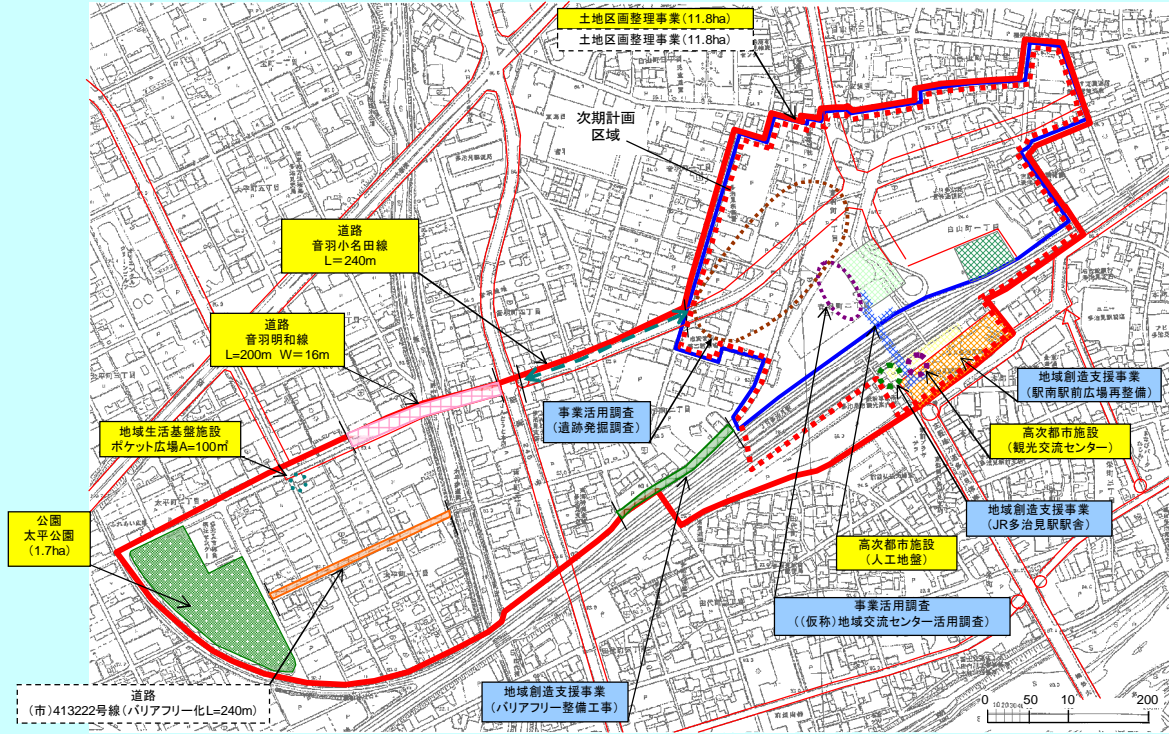
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	多治見市		地区名	多治見駅周辺地区		面積	34.0 ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	7,333百万円	国費率	0.386				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(音羽明和線、音羽小名田線)、公園(太平公園)、地域生活基盤施設(ポケット広場)、高次都市施設(人工地盤)、土地区画整理事業(多治見駅北地区)										
		提案事業	地域創造支援事業(JR多治見駅駅舎、駅南駅前広場再整備)、事業活用調査((仮称)地域交流センター活用調査)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路((市)211916線、(市)413222線)、公園(2号公園、3号公園)、地域生活基盤施設(多目的広場、耐震性貯水槽)、高質空間形成施設(虎渓用水)			削除/追加の理由 道路:地域創造支援事業に切り替え。 公園:土地区画整理事業の進捗にあわせ、対象事業から削除。 高質空間形成施設:土地区画整理事業の進捗にあわせ、対象事業から削除。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 道路:実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。 公園:住環境に関する満足度指標に関係するが、数値目標は据え置く。 高質空間形成施設:住環境に関する満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く。				
		提案事業	地域創造支援事業(観光案内所、既存跨線橋等撤去、駅北立体駐車場検討調査、駅西立体駐車場検討調査)			観光案内所:高次都市施設に切り替え。 既存跨線橋等撤去:高次都市施設に切り替え。 駅北立体駐車場検討調査:民間により実施するため削除。 駅西立体駐車場検討調査:現状の形態で対応可能のため削除。			観光案内所:実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。 既存跨線橋等撤去:実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。 駅北立体駐車場検討調査:駅西立体駐車場検討調査:交通便利性に関する満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く。				
	新たに追加した事業	基幹事業	高次都市施設(観光交流センター)			地域創造支援事業からの切り替え。			実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。				
		提案事業	地域創造支援事業(バリアフリー整備工事)、事業活用調査(遺跡発掘調査、事業効果分析)			地域創造支援事業:道路事業から切り替え。 事業活用調査(遺跡発掘):区画整理の実施に伴い、必要な調査を追加。 事業活用調査(事業効果分析):事後評価に必要な資料作成を追加。			地域創造支援事業:実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。 事業活用調査(遺跡発掘):住環境に関する満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く。				
交付期間の変更	当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	交通利便性に関する満足度	ポイント	2.96	H15	3.50	H22		2.87	△	あり なし	●	平成23年6月
	指標2	街並み景観に関する満足度	ポイント	2.62	H15	3.50	H22		2.61	△	あり なし	●	平成23年6月
	指標3	住環境に関する満足度	ポイント	2.83	H15	3.50	H22		2.57	△	あり なし	●	平成23年6月
指標4	自由通路利用者数	人/12H	6,745	H17	10,000	H22		20,142	○	あり なし		平成23年6月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み			
	その他の数値指標1	駅周辺地区の交通環境の変化に関する住民の印象	ポイント	3	H17				3.93			●	平成23年6月
	その他の数値指標2	駅周辺地区の景観形成の変化に関する住民の印象	ポイント	3	H17				3.83			●	平成23年6月
	その他の数値指標3	駅周辺の整備による住環境の変化に関する住民の印象	ポイント	3	H17				3.48			●	平成23年6月
その他の数値指標4	多治見駅観光案内所利用者数	人/月	433	H17				3,577			●	平成23年6月	
4)定性的な効果発現状況	*平成22年6月に実施した精華校区の住民を対象としたアンケートの自由記述のなかで、駅舎および自由通路が整備され便利になった、きれいになった等の評価が得られた。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等						
	モニタリング	・実施なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	・多目的広場ワークショップの開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 多目的広場ワークショップにおいて取りまとめた要望・意見を、整備計画検討に活用する。						
	持続的なまちづくり体制の構築	・多治見駅北地区における虎渓用水を活用した水と緑の委員会の設立		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 委員会が主体となり具体的な計画案が提案されるよう、支援する。						

## 様式2-2 地区の概要

### 多治見駅周辺地区(岐阜県多治見市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
<b>大目標 ここちよい風景があり、そして、賑わいのある多治見の新たな顔づくり</b> ○土地区画整理事業の推進により、商業機能・居住機能が調和した安全で快適な都市環境を創出する。 ○駅周辺の道路整備による駅へのアクセスを改善し、誰もが利用しやすい交通環境の創出を目指す。 ○市民が集い交流できる賑わい拠点を創出する。	交通利便性に関する満足度	単位:ポイント	2.96	H15	3.50	H22	2.87	H22
	街並み景観に関する満足度	単位:ポイント	2.62	H15	3.50	H22	2.61	H22
	住環境に関する満足度	単位:ポイント	2.83	H15	3.50	H22	2.57	H22
	自由通路利用者数	単位:人/12H	6,745	H17	10,000	H22	20,142	H22



凡例	
<span style="background-color: yellow; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	基幹事業
<span style="background-color: lightblue; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	提案事業
<span style="border: 1px dashed black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	関連事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商業地・住宅地が調和したまちづくりの推進:土地区画整理事業等により、駅前広場等の都市基盤が整備され、駅周辺の整備による住環境の変化に関する住民の印象が向上した。しかし、未だに身近な道路や公園が不十分であり、改善が必要である。また、景観のシンボルとなる駅舎等が整備されたが、良好な景観の面的な広がりが不足しているため、対応が必要である。</li> <li>●駅利用者への利便性・安全性の向上:駅へアクセスする道路や自由通路、駅舎などが整備され、駅利用が便利になった。また、歩行者の安全性が向上した。しかし、未だに駅へアクセスするルートが一部で不便なままであり、改善が必要である。また、自転車駐輪場が暫定供用の状態であり、自転車での駅利用が不便のため改善が必要である。</li> <li>●市民が安心して生活できる交通体系の構築:駅前広場や音羽小名田線など、駅へつながる歩車空間が整備され、駅周辺地区の交通環境の変化に関する住民の印象が向上した。しかし、未だに狭い道路に交通が集中する箇所や、見通しが悪く危険な箇所等が残っており、対応が必要である。また、市民の生活を考慮し、本地区の拠点としての整備だけでなく、市全体としての交通体系の利便性向上が必要である。</li> <li>●拠点施設及び周辺の環境整備:駅舎の再整備や観光交流センター等の整備により、駅の使い勝手や駅の拠点性が向上した。また、近隣公園がバリアフリー化し、利用しやすい公園となった。しかし、賑わいや交流の拠点となる場所が整備されておらず、対応が必要である。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商業地・住宅地が調和したまちとなる土地利用の促進:商業地・住宅地が調和したまちとなる土地利用の促進のため、市民に対する地区のPRや、地権者に対する情報発信等を行う。</li> <li>●駅利用者への利便性・安全性の向上:拠点施設及び周辺の環境整備、市民が安心して生活できる交通体系の構築:駅の利便性、拠点性向上のため、観光客等来訪者への対応を充実させる。</li> <li>●安全で快適な都市環境の更なる向上:都市環境の向上を図るため、道路・公園など基盤の整備や、宅地の整備などを引き続き推進する。</li> <li>●地域資源を活かした良好な景観の拡充:良好な景観の拡充のため、地域資源を活かした景観整備を推進する。</li> <li>●駅利用者への利便性・安全性の更なる向上:駅の利便性、安全性向上のため、自転車駐輪場の整備や、道路の整備により、駅へのアクセス機能の向上を図る。</li> <li>●交通体系の更なる充実:交通体系の更なる充実のため、幹線道路等の整備を推進する。また、全体的な交通利便性の向上のため、公共交通利用促進策の検討を行う。</li> <li>●駅周辺の拠点機能の更なる拡充:駅周辺の拠点機能の拡充のため、市民の交流、賑わいの場の創出を図る。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	音羽明和線	598	L=200m、W=16m	430	L=200m、W=16m	移転補償費を精査。	実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。		●
	音羽小名田線	125	L=480m	20	L=240m	整備内容を電線地中化から排水性舗装・透水性舗装に変更。	住環境に関する満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
	(市)211916線	8	L=100m	—	—	提案事業に切替える。	地域創造支援事業(バリアフリー整備工事)として整備を行うため、実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。	—	—
	(市)413222線	13	L=100m	—	—	提案事業に切替える。	地域創造支援事業(バリアフリー整備工事)として整備を行うため、実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。	—	—
公園	2号公園	8	1,000㎡	—	—	土地区画整理事業の進捗遅れにより、対象事業から除外する。	住環境に関する満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く。	—	—
	3号公園	10	1,200㎡	—	—	土地区画整理事業の進捗遅れにより、対象事業から除外する。	住環境に関する満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く。	—	—
	太平公園	70	1.7ha	70	1.7ha	—	—	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	多目的広場	969	3,400㎡	—	—	次期計画で整備する方針とし、対象事業から除外する。	街並み景観に関する満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く。	—	—
	ポケット広場	6	100㎡	2	100㎡	事業費の精査により、整備費が増額したが、施工内容に変更なし。	実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。	●	
	耐水性貯水槽	32	60t×2、100t×1	—	—	次期計画で整備する方針とし、対象事業から除外する。	住環境に関する満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く。	—	—
高質空間形成施設	虎溪用水	11	風車ポンプ×1	—	—	土地区画整理事業の進捗遅れにより、対象事業から除外する。	街並み景観に関する満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く。	—	—
高次都市施設	人工地盤	3,070	L=100、W=10m	3,245	L=100、W=10m	既存跨線橋撤去費用追加等により事業費増加。施工内容に変更はない。	既存跨線橋撤去は地域創造支援事業からの変更であり、実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。	●	
	観光交流センター	—	—	24	35.56㎡	提案事業から基幹事業に変更。また、詳細設計に基づき事業費を精査。	実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)	多治見駅北地区	1,000	11.8ha	1,302	11.8ha	事業費の精査により、整備費が増額した。施工内容に変更はない。	実施内容に変更がなく、数値目標に影響はない。		●
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと





添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし
指標1	交通利便性に関する満足度	ポイント	平成22年6月に実施した、精華校区の住民を対象としたアンケート調査(配布数500、回収数307)の結果を用い、交通利便性に関する満足度について、満足:5点、やや満足:4点、やや不満:2点、不満:1点として集計し、回答数で除して平均値を出し、評価値とする。	2.68	H14	2.96	H15	3.50	H22	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定見込み ●	2.87	事後評価	
指標2	街並み景観に関する満足度	ポイント	平成22年6月に実施した、精華校区の住民を対象としたアンケート調査(配布数500、回収数307)の結果を用い、街並み景観に関する満足度について、満足:5点、やや満足:4点、やや不満:2点、不満:1点として集計し、回答数で除して平均値を出し、評価値とする。	2.77	H14	2.62	H15	3.50	H22	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定見込み ●	2.61	事後評価	
指標3	住環境に関する満足度	ポイント	平成22年6月に実施した、精華校区の住民を対象としたアンケート調査(配布数500、回収数307)の結果を用い、住環境に関する満足度について、満足:5点、やや満足:4点、やや不満:2点、不満:1点として集計し、回答数で除して平均値を出し、評価値とする。	2.92	H14	2.83	H15	3.50	H22	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定見込み ●	2.57	事後評価	
指標4	自由通路利用者数	人/12H	平成22年6月の平日に、自由通路を南北両方向から通行する人数を朝7時から夜7時までの12時間計測した結果を集計し、評価値とする。	4,939	H7	6,745	H17	10,000	H22	モニタリング		モニタリング		○
										事後評価	確定見込み ●	20,142	事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	目標値には達しなかったものの、都市再生整備計画の事業前には下落傾向にあった満足度が、上昇傾向となり、事業直前の値(平成17年度の値:2.69)よりも改善したため、近年の傾向から改善しているとして△とした。	平成22年6月に実施した、精華校区の住民を対象としたアンケート調査では、交通利便性に関する満足度について、多治見駅周辺地区の事業に対する満足度ではなく、市政全体に対する満足度を質問していることから、事業に関連しない部分で評価がされている可能性がある。
指標2	目標値には達しなかったものの、都市再生整備計画の事業前には下落傾向にあった満足度が、下落を止め、事業直前の値(平成17年度の値:2.60)と同程度を維持したため、近年の傾向から改善しているとして△とした。	平成22年6月に実施した、精華校区の住民を対象としたアンケート調査では、街並み景観に関する満足度について、多治見駅周辺地区の事業に対する満足度ではなく、市政全体に対する満足度を質問していることから、事業に関連しない部分で評価がされている可能性がある。
指標3	目標値には達しなかったものの、都市再生整備計画の事業前には下落傾向にあった満足度が、下落を止め、事業直前の値(平成17年度の値:2.58)と同程度を維持したため、近年の傾向から改善しているとして△とした。	平成22年6月に実施した、精華校区の住民を対象としたアンケート調査では、住環境に関する満足度について、多治見駅周辺地区の事業に対する満足度ではなく、市政全体に対する満足度を質問していることから、事業に関連しない部分で評価がされている可能性がある。
指標4	自由通路の整備により利用者数が大幅に伸び、目標値の倍以上となる数値を達成したため、○とした。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1	従前値(イ)	数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)		
			計画以前の値(ア)					基準年度	基準年度
その他の数値指標1	駅周辺地区の交通環境の変化に関する住民の印象	ポイント	—	3.00	H17	モニタリング	指標1を補完し、「誰もが利用しやすい交通環境」が創出されたことを、多治見駅周辺地区の交通環境の変化に対する市民の評価で説明するため。	アンケート調査において、事業前と比較した現在の状況を5段階評価で質問しているため、従前値は3.00とした。	
						事後評価			確定
その他の数値指標2	駅周辺地区の景観形成の変化に関する住民の印象	ポイント	—	3.00	H17	モニタリング	指標2を補完し、「安全で快適な都市環境」が創出されたことを、多治見駅周辺地区の景観形成の変化に対する市民の評価で説明するため。	アンケート調査において、事業前と比較した現在の状況を5段階評価で質問しているため、従前値は3.00とした。	
						事後評価			確定
その他の数値指標3	駅周辺の整備による住環境の変化に関する住民の印象	ポイント	—	3.00	H17	モニタリング	指標3を補完し、「安全で快適な都市環境」が創出されたことを、多治見駅周辺地区の住環境の変化に対する市民の評価で説明するため。	アンケート調査において、事業前と比較した現在の状況を5段階評価で質問しているため、従前値は3.00とした。	
						事後評価			確定
その他の数値指標4	多治見駅観光案内所利用者数	人/月	481	H12	433	H17	モニタリング	指標4を補完し、「市民が集い交流できる賑わい拠点」が創出されたことを、観光案内所利用者数で説明するため。	
							事後評価		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

平成22年6月に実施した精華校区の住民を対象としたアンケートの自由記述のなかで、駅舎および自由通路が整備され便利になった、きれいになった等の評価が得られた。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
多目的広場ワークショップの開催	予定どおり実施した	● 【実施頻度】25回 【実施時期】平成18年度～平成20年度 【実施結果】市民有志等の参加による多目的広場ワークショップにより、多目的広場の利用方法、賑わい創出の仕組みづくり等を検討し、多目的広場や駅北拠点施設の整備に関する要望・意見を取りまとめた。	多目的広場ワークショップにおいて取りまとめた要望・意見を、整備計画検討に活用する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
多治見駅北地区における虎渓用水を活用した水と緑の委員会の設立	予定どおり実施した	● 地域資源である虎渓用水を活用したまちづくりを推進するため、多目的広場ワークショップと多治見商工会議所との連携による「多治見駅北地区における虎渓用水を活用した水と緑の委員会」を平成22年2月に設立し、同年7月までに5回の活動を行っている。	多治見駅北地区における虎渓用水を活用した水と緑の委員会	委員会が主体となり具体的な計画案が提案されるよう、支援する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

### (3) 効果発現要因の整理

#### 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	道路河川課、用地課、緑化公園課、区画整理課	第1回：平成22年7月21日 第2回：平成22年8月25日	区画整理課(都市再生整備計画事業主管課)

#### 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標4		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3	
		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
			自由通路利用者数		駅周辺地区の交通環境の変化に関する住民の印象		駅周辺地区の景観形成の変化に関する住民の印象		駅周辺の整備による住環境の変化に関する住民の印象
基幹事業	道路(音羽明和線)	○	自由通路や駅前広場の整備により、バリアフリー化された歩行者空間が広がり、快適に移動できるようになった。また、自由通路内に観光案内所やベンチが整備され、市民や来訪者の交流や憩いの場となっている。更に、駅舎の整備により駅利用者が全て自由通路を利用するようになった。これらにより、自由通路利用者数が増加し、誰もが利用しやすい交通環境の創出が図られたと考えられる。	○	駅へアクセスする道路や自由通路、駅舎などが整備され、線路北側からの駅利用が容易になった。これらにより、駅周辺地区の交通環境の変化に関する住民の印象が向上し、誰もが利用しやすい交通環境の創出が図られたと考えられる。	○	自由通路、駅舎、駅北駅前広場など、駅周辺地区のシンボルとなる景観が形成された。これらにより、駅周辺地区の景観形成の変化に関する住民の印象が向上し、快適な都市環境の創出が図られたと考えられる。	○	近隣公園である太平公園がバリアフリーの公園となり、誰にでも利用しやすい公園となった。また、土地区画整理事業等により道路や宅地が整備され、良好な住環境が整いつつある。これらにより、駅周辺の整備による住環境の変化に関する住民の印象が向上し、快適な都市環境の創出が図られたと考えられる。
	道路(音羽小名田線)	○		○		○			
	公園(太平公園)	—		—		—			
	地域生活基盤施設(ポケット広場)	○		○		○			
	高次都市施設(人工地盤)	◎		○		○			
	高次都市施設(観光交流センター)	◎		—		—			
	土地区画整理事業(多治見駅北地区)	○		○		○			
提案事業	地域創造支援事業(JR多治見駅駅舎)	◎		○		○			
	地域創造支援事業(駅南駅前広場再整備)	○		○		○			
	地域創造支援事業(バリアフリー整備工事)	○		○		○			
	事業活用調査((仮称)地域交流センター活用調査)	—	—	—					
	事業活用調査(遺跡発掘調査)	—	○	○					
	事業活用調査(事業効果分析)	—	—	—					
関連事業	土地区画整理事業(特会)	○	○	○					
	バリアフリー化	○	○	○					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	自由通路利用者数を維持・増加させるため、多目的広場や観光情報板の整備など、歩行者の回遊性を高める取り組みを行う。	駅周辺の交通環境を向上させるため、駐輪場の整備など、駅の交通結節機能を高める取り組みを行う。	良好な景観を広げるため、虎沢用水の活用など、地域資源を活かした景観整備を図る。	住環境の向上を図るため、土地区画整理事業等による道路・公園など基盤の整備や、宅地の整備などを引き続き進める。
-------	--	--	---	--

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標4					
指標名		多治見駅観光案内所利用者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見				
基幹事業	道路(音羽明和線)	—	自由通路、駅舎の整備とあわせて、駅利用者の動線上に多治見駅観光案内所が整備されたことで、観光案内所の所在が分かりやすくなり、使いやすさも向上した。これらにより、観光案内所利用者数が増加し、賑わい拠点の創出が図られたと考えられる。				
	道路(音羽小名田線)	—					
	公園(太平公園)	—					
	地域生活基盤施設(ポケット広場)	—					
	高次都市施設(人工地盤)	○					
	高次都市施設(観光交流センター)	◎					
土地区画整理事業(多治見駅北地区)	—						
提案事業	地域創造支援事業(JR多治見駅駅舎)	○					
	地域創造支援事業(駅南駅前広場再整備)	○					
	地域創造支援事業(バリアフリー整備工事)	—					
	事業活用調査((仮称)地域交流センター活用調査)	—					
	事業活用調査(遺跡発掘調査)	—					
	事業活用調査(事業効果分析)	—					
関連事業	土地区画整理事業(特会)	—					
	バリアフリー化	—					

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	観光客への対応を充実させるため、多目的広場の整備による交流の場の創出や、観光情報案内板の整備による案内情報の提供などの取り組みを行う。			
-------	---	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3		
指標名		交通利便性に関する満足度			街並み景観に関する満足度			住環境に関する満足度		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(音羽明和線)	△	市政への満足度として調査を行っているため、埋蔵文化財発掘による土地区画整理事業長期化に伴う市政への不満等から、満足度が伸びなかったと推察される。 しかし、駅へアクセスする道路や自由通路、JR多治見駅駅舎などが整備され、線路北側からの駅利用が容易になった。これらにより、下落傾向であった満足度が下げ止まったほか、駅が便利になったとの市民の声が聞かれたため、誰もが利用しやすい交通環境の創出が図られたと考えられる。	III	△	市政への満足度として調査を行っているため、埋蔵文化財発掘による土地区画整理事業長期化に伴う市政への不満等から、満足度が伸びなかったと推察される。 しかし、自由通路、JR多治見駅駅舎、駅北駅前広場など、駅周辺地区のシンボルとなる景観が形成された。これらにより、下落傾向であった満足度が下げ止まったほか、駅がきれいになったとの市民の声が聞かれたため、快適な都市環境の創出が図られたと考えられる。	III	△	市政への満足度として調査を行っているため、埋蔵文化財発掘による土地区画整理事業長期化に伴う市政への不満等から、満足度が伸びなかったと推察される。 しかし、事業によって、近隣公園である太平公園がバリアフリーの公園となり、誰にでも利用しやすい公園となった。また、土地区画整理事業等により道路や宅地が整備され、良好な住環境が整いつつある。これらにより、下落傾向にあった満足度が下げ止まり、快適な都市環境の創出が図られたと考えられる。	III
	道路(音羽小名田線)	△								
	公園(太平公園)	—								
	地域生活基盤施設(ポケット広場)	△								
	高次都市施設(人工地盤)	△								
	高次都市施設(観光交流センター)	—								
提案事業	土地区画整理事業(多治見駅北地区)	△								
	地域創造支援事業(JR多治見駅駅舎)	△								
	地域創造支援事業(駅南駅前広場再整備)	△								
	地域創造支援事業(バリアフリー整備工事)	△								
	事業活用調査((仮称)地域交流センター活用調査)	—								
	事業活用調査(遺跡発掘調査)	—								
関連事業	事業活用調査(事業効果分析)	—								
	土地区画整理事業(特会)	△								
	バリアフリー化	△								

※目標未達成への影響度

- × × : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- × : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △ : 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I : 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II : 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III : 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV : 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	交通利便性に関する満足度	街並み景観に関する満足度	住環境に関する満足度
	パークアンドライドなど公共交通利用促進策の検討や、都市計画道路網構想の推進などにより、全市的な交通利便性向上を図る。	良好な景観を広げるため、多治見市産の陶器・タイルを活かした建築の促進など、地域資源を活かした景観整備を図る。	住環境の向上を図るため、土地区画整理事業等による道路・公園など基盤の整備や、宅地の整備などを引き続き進める。

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	道路河川課、用地課、緑化公園課、区画整理課	第1回：平成22年7月21日 第2回：平成22年8月25日	区画整理課(都市再生整備計画事業主管課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
商業地・住宅地が調和したまちづくりの推進	土地区画整理事業等により、駅前広場等の都市基盤が整備され、駅周辺の整備による住環境の変化に関する住民の印象が向上した。また、駅舎等の整備により、本地区の景観のシンボルが生み出された。	駅を中心とした整備や、近隣公園の整備はされたものの、未だに身近な道路や公園が不十分であり、改善が必要である。また景観のシンボルとなる駅舎等の整備はされたものの、良好な景観の面的な広がり不足しているため、対応が必要である。	なし
駅利用者への利便性、安全性の向上	駅へアクセスする道路や自由通路、駅舎などが整備され、駅北側からの駅利用が容易になった。また、駅を中心に歩行者空間がバリアフリーで整備され、歩行者の安全性が向上した。	駅舎および自由通路の整備により、歩行者の駅利用は安全で便利になったが、未だに駅へアクセスするルートが一部で不便なままであり、改善が必要である。また、自転車駐輪場が暫定供用の状態であり、自転車での駅利用が不便のため、改善が必要である。	
市民が安心して生活できる交通体系の構築	駅前広場や音羽小名田線など、駅へつながる歩車空間が整備され、駅周辺地区の交通環境の変化に関する住民の印象が向上した。	駅へつながる歩車空間が整備されたものの、未だに狭い道路に交通が集中する箇所や、見通しが悪く危険な箇所等が残されており、対応が必要である。 また、市民の生活を考慮し、本地区の拠点としての整備だけでなく、市全体としての交通体系の利便性向上が必要である。	
拠点施設及び周辺環境整備	駅舎の再整備や、駅利用者の動線上に観光交流センターが整備され、駅の使い勝手や駅の拠点性が向上した。また、近隣公園である太平公園がバリアフリーの公園となり、誰にでも利用しやすい公園となった。	交通の拠点となる駅舎、来訪者の拠点となる観光交流センター、憩いの場の拠点となる近隣公園が整備されたものの、賑わいや交流の拠点となる場所が整備されておらず、対応が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	商業地・住宅地が調和したまちとなる土地利用の促進	商業地・住宅地が調和したまちとなる土地利用の促進のため、市民に対する地区のPRや、地権者に対する情報発信等を行う。	ホームページ等による市民への情報提供 まちづくりニュース等による地権者への情報提供 駅前広場・自由通路イベント利用ルール策定
	駅利用者への利便性、安全性の向上 拠点施設及び周辺の環境整備 市民が安心して生活できる交通体系の構築	駅・駅周辺の利便性、拠点性向上のため、観光客等来訪者への対応を充実させる。	多治見駅前および駅周辺での観光情報板整備

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策	安全で快適な都市環境の更なる向上	都市環境の向上のため、道路・公園など基盤の整備や、宅地の整備などを引き続き推進する。	多治見駅北土地区画整理事業 地区内の街区公園整備(1号公園、2号公園、3号公園) 街区公園、多目的広場への耐震性貯水槽整備
	地域資源を活かした良好な景観の拡充	良好な景観の拡充のため、地域資源を活かした景観整備を推進する。	虎渓用水を活用した修景整備 景観・修景ワークショップ
	駅利用者への利便性、安全性の更なる向上	駅の利便性、安全性向上のため、自転車駐輪場の整備や道路の整備により、駅へのアクセス機能の向上を図る。	多治見駅北地区での自転車駐輪場整備 多治見駅北土地区画整理事業
	交通体系の更なる充実	交通体系の更なる充実のため、土地区画整理事業等による幹線道路等の整備を推進する。また、全市的な交通利便性の向上のため、公共交通利用促進策の検討を行う。	多治見駅北土地区画整理事業 パークアンドライドなど公共交通利用促進策の検討
	駅周辺の拠点機能の更なる拡充	駅周辺の拠点機能の拡充のため、市民の交流、賑わいの場の創出を図る。	多治見駅北地区での多目的広場整備 多治見駅周辺でのにぎわい創出を目的とした拠点施設整備

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・住民によるまちづくりについて、虎渓用水を活用した水と緑の委員会などをきっかけに、住民が主体的にまちの管理を行うようになると良い、との意見があった。  
 ・駅前駅前広場の整備により木が少なくなった、との意見があった。また、なるべく在来種を活用した植樹を行うと良い、との意見があった。  
 ・緑化の推進や虎渓用水の活用などにより、暑さ対策を実施できると良い、との意見があった。  
 ・駅前広場や自由通路について、市民がコンサートや市場などのイベントを開催できると良い、との意見があった。また、防犯カメラの設置など防犯面を拡充すると良い、との意見や、タイル舗装について雨天時に滑る可能性があるため対策をして欲しい、との意見があった。



添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
				年度		年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	交通利便性に関する満足度	ポイント	2.96	H15	3.50	H22	確定	2.87	△	あり	→	平成23年6月	精華校区の住民を対象にアンケート調査(配布数500)を行い、平成23年6月時点における交通利便性に関する満足度について、満足:5点、やや満足:4点、やや不満:2点、不満:1点として集計し、回答数で除して平均値を出し、確定値とする。	
							見込み ●			なし ●				
指標2	街並み景観に関する満足度	ポイント	2.62	H15	3.50	H22	確定	2.61	△	あり	→	平成23年6月	精華校区の住民を対象にアンケート調査(配布数500)を行い、平成23年6月時点における街並み景観に関する満足度について、満足:5点、やや満足:4点、やや不満:2点、不満:1点として集計し、回答数で除して平均値を出し、確定値とする。	
							見込み ●			なし ●				
指標3	住環境に関する満足度	ポイント	2.83	H15	3.50	H22	確定	2.57	△	あり	→	平成23年6月	精華校区の住民を対象にアンケート調査(配布数500)を行い、平成23年6月時点における住環境に関する満足度について、満足:5点、やや満足:4点、やや不満:2点、不満:1点として集計し、回答数で除して平均値を出し、確定値とする。	
							見込み ●			なし ●				
指標4	自由通路利用者数	人/12H	6,745	H17	10,000	H22	確定	20,142	○	あり	→	平成23年6月	平成23年6月の平日に、自由通路を南北両方向から通行する人数を朝7時から夜7時までの12時間計測した結果を集計し、確定値とする。	
							見込み ●			なし				
その他の数値指標1	駅周辺地区の交通環境の変化に関する住民の印象	ポイント	3.00	H17	/	/	確定	3.93	/	/	→	平成23年6月	精華校区の住民を対象にアンケート調査(配布数500)を行い、平成23年6月時点における駅周辺地区の交通環境の変化に関する印象について、事業前と比べ良くなっている:5点、若干良くなっている:4点、変わらない:3点、若干悪くなっている:2点、悪くなっている:1点として集計し、回答数で除して平均値を出し、確定値とする。	
						見込み ●								
その他の数値指標2	駅周辺地区の景観形成の変化に関する住民の印象	ポイント	3.00	H17	/	/	確定	3.83	/	/	→	平成23年6月	精華校区の住民を対象にアンケート調査(配布数500)を行い、平成23年6月時点における駅周辺地区の景観形成の変化に関する印象について、事業前と比べ良くなっている:5点、若干良くなっている:4点、変わらない:3点、若干悪くなっている:2点、悪くなっている:1点として集計し、回答数で除して平均値を出し、確定値とする。	
						見込み ●								
その他の数値指標3	駅周辺の整備による住環境の変化に関する住民の印象	ポイント	3.00	H17	/	/	確定	3.48	/	/	→	平成23年6月	精華校区の住民を対象にアンケート調査(配布数500)を行い、平成23年6月時点における駅周辺の整備による住環境の変化に関する印象について、事業前と比べ良くなっている:5点、若干良くなっている:4点、変わらない:3点、若干悪くなっている:2点、悪くなっている:1点として集計し、回答数で除して平均値を出し、確定値とする。	
						見込み ●								
その他の数値指標4	多治見駅観光案内所利用者数	人/月	433	H17	/	/	確定	3,577	/	/	→	平成23年6月	「平成22年度多治見駅観光案内所来訪者累計一覧」により、平成22年度の一ヶ月あたり平均の「多治見駅観光案内所利用者数」を算出し、確定値とする。	
						見込み ●								

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		指標データの計測手法は、事業外の要因による影響を考慮し、検討することが重要である。
	うまく いかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査による満足度の把握について、多治見市市民意識調査の結果を活用するために「市政への満足度」として調査を行ったため、事業外の要因による影響を受けた。</li> <li>自由通路利用者数について、整備前後で駅舎の位置が変わったため、同条件で比較することができなかった。</li> </ul>	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>多目的広場ワークショップにより、市民の中で修景・景観整備の必要性についての意識が芽生え、虎渓用水を活用した水と緑の委員会の設立へつながった。</li> <li>まちづくりニュースの発行により、土地区画整理事業の地権者に対して年間4～5回の情報提供を行い、地権者と情報共有をしながら事業を推進することができた。</li> </ul>	ワークショップの実施は、市民の意識向上に有効である。 まちづくりニュースによるきめ細かな情報提供は、スムーズな事業推進に有効である。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>市政への満足度は、隔年で実施している市民意識調査で把握が可能であるため、途中で効果を確認しながら事業を実施することができた。</li> </ul>	定期的に計測されている数値を指標とすることは、PDCAサイクルを実施する上で有効である。
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

### 添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

#### 【今後の都市再生整備計画事業の活用予定】

多治見駅周辺地区において、都市再生整備計画(平成23年度～平成27年度)を作成し、社会資本整備総合交付金を活用して事業を展開する。

#### 【今後の事後評価を予定する地区】

本市においては、平成23年度に精華地区、平成27年度に多治見駅周辺地区において事後評価を実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成22年10月5日～10月20日	平成22年10月5日～10月20日	担当課へ郵便、ファックス、Eメールなど	区画整理課(都市再生整備計画事業主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページ及び担当課窓口で原案を公表している旨を掲載	平成22年10月1日発刊 広報たじみ平成22年10月1日号	平成22年10月5日～10月20日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	区画整理課窓口で閲覧	平成22年10月5日～10月20日	平成22年10月5日～10月20日		

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

	委員構成	実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	松本 直司 (名古屋工業大学大学院工学研究科 教授)	平成22年11月26日	区画整理課(都市再生整備計画事業主管課)	多治見市都市再生整備計画事業(まちづくり交付金)評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	志村 稔博 (陶都信用農業協同組合 経済本部 元理事) 渡邊 勝利 (東濃信用金庫 会長) 梶田 廣幸 (多治見市議会 駅周辺まちづくり特別委員会委員長) 柴田 雅也 (多治見市議会 建設常任委員会委員長) 加藤 文恵 (市民)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・市民の満足度について、6月にアンケートを実施した時と比べ工事が進展したため、現在は市民の満足度は向上していると思う、との意見があった。→フォローアップによって、事業完了後に再度満足度を計測することを説明し、了承を得た。
	実施過程の評価	・「多治見駅北地区における虎渓用水を活用した水と緑の委員会」などをきっかけに、今後、住民主体のまちづくりが育って欲しい、との意見があった。
	効果発現要因の整理	・指標ごとに効果発現要因を確認し、適切に整理されていることが認められた。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、広報による周知の後、ホームページおよび窓口閲覧により公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・駅南駅前広場の整備により木が少なくなった、との意見があった。また、なるべく在来種を活用した植樹を行うと良い、との意見があった。→2月にシンボルとなる植樹を行うほか、県道の緑化や民有地緑化を進めていくこと、在来種の活用を含めて検討していくことを説明し、了承を得た。 ・緑化の推進や虎渓用水の活用などにより、暑さ対策を実施できると良い、との意見があった。 ・駅前広場や自由通路について、市民がコンサートや市場などのイベントを開催できると良い、との意見があった。また、防犯カメラの設置など防犯面を拡充すると良い、との意見や、タイル舗装について雨天時に滑る可能性があるため対策をして欲しい、との意見があった。
	フォローアップ	・全ての事業が完了した後、平成23年度においてフォローアップを実施することが確認された。
	その他	・多治見らしさの創出について、「うながっぱ」による団扇配布等のイベントや、温度計の設置などは良い取り組みだと思う、との意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「都市再生整備計画評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

# 都市再生整備計画(第4回変更)

たじみえきしゅうへんちく  
多治見駅周辺地区

ぎふけん たじみし  
岐阜県 多治見市

平成22年11月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岐阜県	市町村名	多治見市	地区名	多治見駅周辺地区	面積	34.0 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

<b>目標</b>	
大目標	こちよい風景があり、そして、賑わいのある多治見の新たな顔づくり
目標1	土地区画整理事業の推進により、商業機能・居住機能が調和した安全で快適な都市環境を創出する。
目標2	駅周辺の道路整備による駅へのアクセスを改善し、誰もが利用しやすい交通環境の創出を目指す。
目標3	市民が集い交流できる賑わい拠点を創出する。

<b>目標設定の根拠</b>	
まちづくりの経緯及び現況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地区は、JR中央線多治見駅を中心とする地区であり、商業地域として商業業務機能や駅直近の利便を活かした土地利用、そして、東濃地域の表玄関としての顔づくりが望まれている。そうした中、駅北側においては、大規模な旧国鉄跡地が位置し、都市基盤の整備も立ち遅れていることから、旧国鉄跡地(市有地)を中心に市施行の土地区画整理事業が平成11年度からスタートしている(平成14年仮換地指定、平成16年駅北駅前広場完成)。一方駅南側においては駅前広場は整備済みであるが、駅北地区の整備にあわせ、南北一体となった利便性の向上が望まれている。</li> <li>・駅北側整備に伴う環境改善にあわせ、駅北側への西側からのアクセス道路が交通渋滞を招いているため、今後の駅北の交流拠点整備及び太平公園の整備にあわせ、これらの拠点を往来する交通量の増加が想定されるため、交通処理をスムーズに行うための路線整備が望まれる。</li> <li>・本地区の東側は中心市街地活性化基本計画の区域内に位置しており、同基本計画では、土地区画整理事業の推進、南北自由通路の整備、多目的広場や地域交流センター等の新規拠点づくりによる活性化の方向が示されている。また、本地区は市のパリアフリーモデル地区に指定されているため、「ゆとりとやさしさが享受されるまちづくり」の形成に配慮する。</li> <li>・まちづくり活動としては、まちづくり協議会の他、地権者を中心に「まちづくりガヤガヤ会議」「多目的広場ワークショップ」を開催し、区画整理(土地利用)や多目的広場等について協議を進めている。</li> </ul>	

<b>課題</b>	
<p>本地区は土地区画整理事業の推進による計画的な都市基盤の整備と地区のポテンシャルを活かした土地利用の誘導及び新たな拠点づくりが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前である本地区の特性を活かすため、商業地・住宅地が調和したまちづくりが必要である。</li> <li>・駅北側からの駅利用者は多数いるにもかかわらず、駅舎へのアクセスがスムーズでないため、駅利用者への利便性、安全性の向上を図ることが必要である。</li> <li>・区内生活道路への通過交通の流入がみられ、交通機能の段階的処理ができておらず、市民が安心して生活できる交通体系が必要である。</li> <li>・誘致距離等に配慮して、憩い・うるおい・防災等の機能を有する公園を整備することが必要である。</li> <li>・多目的広場、地域交流センター、太平公園等の整備により、新たな市の拠点を創出すると同時に、既存の拠点施設の再整備が必要である。</li> <li>・駅の橋上化・自由通路の整備にともない、南北の駅へのアクセス動線が現在よりも西へ移動するため、それを補完する南北の駅周辺の環境整備が必要である。</li> </ul>	

<b>将来ビジョン(中長期)</b>	
<p>都市基盤の充実を図り、人口の定着及び商業・サービス機能を誘導し、中心市街地の活性化を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5次総合計画では「活気がある中心市街地を形成する地区として、安全で快適な暮らしやすい住まいを整備するとともに、個性的な商業・商店街の展開を図る。さらに、新しい拠点の整備を一体的に進め、本地区を利用する全ての人びとが集い、ゆとりと活力を感じることができるまちにする」と位置づけている。</li> <li>・都市計画マスタープランでは、中心市街地ゾーンとして位置づけており、賑わいと活力のあるまち多治見を再生する地区として、都市基盤の充実を図り、誰もが移動しやすい交通環境づくりを目指すとともに、土地利用の高度利用を図り、商業の活性化と新たな人口の定着を促進する地区であると位置づけている。</li> <li>・土地区画整理事業区域から西側の地区については、緑の多い、住宅中心の市街地形成を目指す地区と位置づけている。また、幹線道路と生活道路の整備改善を進め、安全な道路空間の確保を目指すとしている。</li> <li>・中心市街地活性化基本計画では、活性化のための基本方針として「暮らしやすい環境をつくる」「集客機能の充実」「美濃焼文化を生かす」「人にやさしい交通環境をつくる」が示されている。</li> </ul>	

<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
交通利便性に関する満足度	ポイント	既存の市民意向調査による鉄道・バス(公共交通機関)などの利便性に対する満足度評価をみる	土地区画整理事業、人工地盤整備、駅南駅前広場再整備等により、交通環境の向上を図ることを目標とし、満足度3.50を目指す。	2.96	H15	3.50	H22
街並み景観に関する満足度	ポイント	既存の市民意向調査による街並みの美しさに対する満足度評価をみる	土地区画整理事業、公園整備、多目的広場整備等により、東濃地域の顔として魅力ある景観形成を図ることを目標とし、満足度3.50を目指す。	2.62	H15	3.50	H22
住環境に関する満足度	ポイント	既存の市民意向調査による住環境の整備に対する満足度評価をみる	土地区画整理事業、公園整備、多目的広場整備、耐震性貯水槽整備により安全で快適な都市環境を創出することを目標とし、満足度3.50を目指す。	2.83	H15	3.50	H22
自由通路利用者数	人/12H	自由通路における歩行者交通量	駅乗降客数は減少傾向にあるが、駅周辺における新たな顔づくり、駅へのアクセス動線の改善により、自由通路の利用者数10,000人を目指す。	6,745人/12h	H17	10,000人/12h	H22

※ポイントは、「3ポイント」より低い場合は「不満」、高い場合は「満足」。最低は1、最高は5

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(安全で快適な都市環境の創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅周辺の基盤整備が遅れていることから、地区内の生活道路への通過交通の流入や土地利用の混在がみられる。そのため、土地区画整理事業や道路改良、交通網の整備及び各種機能配置の再整備を行うことにより、安心して暮らせる環境づくりを進める。また、広場や公園、親水空間の整備により快適な都市環境を創出していく。さらに、広場や公園の整備を進めるにあたり、これらを防災拠点として位置づけ、防災対策も順次図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路／(基幹事業)</li> <li>・土地区画整理事業／(基幹事業)</li> <li>・地域生活基盤施設／(基幹事業)</li> <li>・公園／(基幹事業)</li> </ul>
<p>整備方針2(誰もが利用しやすい交通環境の創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業の推進及び駅西側からの道路整備により、駅へのアクセス性の向上を図る。また、駅南北の一体化や駅利用の利便性の向上を図るため自由通路の整備、駅舎の改築を図る。あわせて、駅南駅前広場の再整備を行う。</li> <li>・歩道整備(バリアフリー化)を行うことにより、歩道部分の障害物をできる限り少なくし、誰もが歩いて移動できる交通環境の創出を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路／(基幹事業)</li> <li>・土地区画整理事業／(基幹事業)</li> <li>・高次都市施設／(基幹事業)</li> <li>・駅南駅前広場再整備／(提案事業・地域創造活動支援事業)</li> <li>・JR多治見駅駅舎／(提案事業・地域創造支援事業)</li> </ul>
<p>整備方針3(賑わい拠点の創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅周辺に公園、駅前広場、観光案内所などを整備し、市民がこれらの場所で交流し、新たな文化・情報の発信地として位置づける。これらの効果が周辺へ波及し、賑わいが創出される駅周辺空間の整備を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業／(基幹事業)</li> <li>・公園／(基幹事業)</li> <li>・高次都市施設／(基幹事業)</li> <li>・地域交流センター活用調査／(提案事業・事業活用調査)</li> <li>・JR多治見駅駅舎／(提案事業・地域創造支援事業)</li> </ul>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業終了後の継続的なまちづくり活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の事業により整備された内容について市民に広く知ってもらい、また活用してもらえよう、情報の発信を今まで通り継続して行っていく。</li> <li>・市民が自治体の行った事業に対し、どのように評価しているのかを把握するために、市民意向調査を活用し、自治体職員自らがその結果を受け止めるとともに、改善すべき点は改善できるよう検討していく。さらに、これらの調査内容を今まで通り、市民にも公開していく。</li> </ul> </li> <li>○OWS等で出された意見を活かしたまちづくり活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・10回以上にわたり、WSを開催し、住民から得たまちづくりに関する意見を活用していくために、土地区画整理事業ではまかないきれない部分については、今後も住民参画型のまちづくり、景観づくりを継続していけるような仕組みづくりを行い、これらの意見が実際に反映できる部分は反映させていき、住民からもらった意見と事業実施計画等がどのようにリンクされているか、相互に情報交換が出来るような仕組みづくりを展開していく。</li> </ul> </li> <li>○事業期間中のまちづくり活動について <ul style="list-style-type: none"> <li>・前述の事業評価は、市が毎年実施しているものであり、各年度ごとに住民の評価を把握しながら事業を進めていくことができるため、今後も住民の評価を常に意識し、また、住民参画型のまちづくりは、事業が進行中の段階においても、継続して話し合いの場が持てるような仕組みづくりを行う。そして、最終的には、地域住民の手で、まちを管理していけるような体制づくりへと発展していけるよう、仕掛けていく。</li> </ul> </li> </ul>	

